

# リトルワールドキャンプ12報告書

2015/8/26

静岡県立大学公認サークル

リトルワールドキャンプ実行委員会

## 1. 私たちのミッション

静岡県には、様々な国の文化を持った方々が住んでいます。しかし、日常生活でその文化に接する機会はあまり多くありません。そこで、様々な活動を共に行うことで、子どもたちが異文化に興味を持ち、理解する場を作りたいという思いから始まったのが、リトルワールドキャンプ（多文化共生キャンプ）です。「私たちは多文化共生キャンプを企画・運営することによって静岡県内に住む子どもたちが身近な異文化との関わりを意識して、それを受け入れていけるようなきっかけを提供します」というミッションのもと、毎年改善を重ねてキャンプを行っています。

## 2. 活動内容

平成27年8月12日から14日に静岡市南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家にて、2泊3日でキャンプを行いました。参加者は、小学4～6年生38名（うち外国にゆかりのある子ども17名）、大学生スタッフ36名、通訳1名、顧問1名、のべ76名が参加しました。

キャンプでは、1日目にはじめましての会・運動会・キャンプファイヤー、2日目にウォークラリー・野外炊飯・レクリエーション、3日目にワークショップ・お別れの全8プログラムを行いました。

また、今回のキャンプでは企画段階で「みんなはおなじ」というテーマを設定し、3日間で子どもが自分との相違点ではなく共通点にたくさん気付くキャンプにするためのプログラムを学生自ら考えました。

以下、各プログラムの内容と活動中の子ども様子です。

### <1日目>

1日目最初のプログラムは「はじめましての会」です。はじめましての会では、まず大漁旗づくりを行いました。子どもたち一人ひとりが大きな旗に手形を押し、大漁旗を完成させました。次に、自己紹介と初対面の子どもが緊張をほぐすことを兼ねてレクリエーションを行いました。折り紙で作ったメダルに名前を書いて3日間つける名札を作り、例えば誕生日の順にみんなで声を出さずに並ぶというレクリエーションをすることで、相手のことをゲーム感覚で楽しみながら知ることが狙いです。子どもたちは最初緊張していましたが、活動を通じて少しずつ緊張がほぐれていく様子が見られました。



(はじめましての会の様子)

緊張がほぐれたところで休憩をはさみ「運動会」です。このプログラムでは生活班とは異なるメンバーで構成されたチームで動く玉入れや障害物競走など、運動会でおなじみの競技を行うことでより多くの子どもたち同士の交流をつくるのが目的です。スタッフはプログラムがスムーズに行われるように補助をしました。誰がどの競技に出るか子どもたち同士で相談する時間を設けたり、どの競技もチームで協力して達成するものを取り入れることで目標の達成を図りました。子どもたちは相談をまとめる子や、競技で力を発揮する子などそれぞれの個性を生かしていました。



(動く玉入れ、障害物競走の様子)

運動会の後は、夕食をはさみ「キャンプファイヤー」を行いました。ここでは普段の生活では体験できないキャンプファイヤーをして自然の雄大さとキャンプの醍醐味を味わうことと、火を囲みながらレクリエーションをすることで1日目を楽しい気持ちで締めくくり、2日目も心待ちにしてもらうことが目的です。火を囲んで方向音痴ゲームやマイムマイム、スタッフが行う寸劇をみんなで観て楽しみました。

<2日目>

お互いのことを少しずつ分かってきたところで、2日目は「ウォークラリー」を行う予定でしたが、雨のため安全性を考慮してあらかじめ準備していた室内レクリエーションに変更しました。割りばしでっぼうでの当てゲームをして楽しんだり、多国籍クイズやわなげを通じてでいろいろな国の文化を学びました。割りばしでっぼうでは、作り方がわからない子に対しほかの子が教えてあげるといった場面がみられ、だんだんキャンプでの生活に慣れてきたことと子どもたちのやさしさを感じました。



(割りばしでっぼう作成の様子)

午後からは「野外炊飯」です。野外炊飯では、ブラジルにゆかりのある子ども達が料理の作り方や自分達の文化を他の国の子ども達に教えてあげることを通して文化の交流の場とすること、その他の国の子ども達にとっては普段なじみのない味を体験する「多国籍料理作り」の場にするのも狙いです。今年はブラジルの煮込み料理ピカジーニョとフィリピンのバナナトロンを作りました。作り方はどちらもシンプルですが、日本の子どもは初めて食べる味にすこし驚いたり、ブラジルにゆかりのある子どもは食べたことある味だといった感想が上がりました。ブラジルにゆかりのある子どもでも、ピカジーニョを食べたことがないという子どもがいたり、ブラジル料理特有の味付けに慣れない子どもがいました。これも新たな発見で、ブラジルやフィリピンにはこんな料理があるのだという異文化を知るきっかけになったのではないのでしょうか。



(食事の様子)

野外炊飯でお腹いっぱいになったところで、2日目最後のプログラムである「レクリエーション」を行いました。内容は新聞紙タワーです。新聞紙タワーとは、新聞紙でどれだけ高いタワーを作れるかを班対抗で競うレクリエーションです。ここでは生活班とは別の班に分かれ、3日目に行うワークショップの班での交流を深めるために班で協力するミニゲームを行いました。1日目、2日目を通してお互いのことを知った子どもたちが、みんなで協力する場面が見られました。

### <3日目>

3日目、最終日は朝食の後にワークショップを行いました。ワークショップはリトルワールドキャンプ初のプログラムで、創作童話を行いました。創作童話とは、もともとある絵本のストーリーを自分たちで考え、登場人物も自分たちで演じるというものです。セリフに日本語・韓国語・ポルトガル語・ロシア語を用意し、様々な国の言葉に触れるようにしました。今回は、赤ずきんちゃんを題材にして、班ごと完成したものを発表しました。3日目にワークショップを行うのは、相手のことをある程度理解し、関係が作られたところなら難易度の高いワークショップもできるのではないかと考えたからです。どんなセリフを使おうか、どんな物語にしようか、班での相談も最終日のこの時間がいちばん活発でした。発表では、各班の個性があらわれたユニークな赤ずきんちゃんになりました。



(練習中の様子)

3日目最後のプログラムはお別れの会です。子どもたちはミニ大漁旗を作りました。はじめましての会の大きな大漁旗とは違い、今度は子どもたち一人ひとりがミニ大漁旗を持ち、それをみんなでまわして寄せ書きをしました。ミニ大漁旗に加え、プロフィールと一言を書いた名刺も作り友達に配りました。子どもたちからは、「キャンプが終わってしまうのが寂しい」「また来たい」とうれしい感想を聞かせてくれました。

毎年、キャンプに参加する子どもたちの間には最初、様々な見えない壁があります。言語の壁、文化の壁、思考の壁など…これらは例えば日本と外国の子どもの間のみならず、同じ国籍の子どもの間にも存在します。その壁にぶつかり、そこで諦めるのではなく、楽しみながら学びながら自然とその壁を意識しなくなると考え、私たちスタッフは約1年かけてキャンプを企画し、当日も活動しました。今年は「みんなはおなじ」というテーマを掲げ、自分と相手の違うところではなく、同じところに気づいて目を向けるためのプログラムを練りました。3日間を通じ、子どもたちは文化の違いを感じ、楽しみ、同時に自分と相手の共通点も知らず知らずのうちに見つけられていたのではないかと感じています。



### 3. 事前準備

万が一（子どもの怪我・病気、災害）に素早く対応するため、緊急対策マニュアルを作成しました。8月1日には、キャンプに参加する子どもの保護者に対しての説明会を静岡県立大学で行いました。説明会には7名の保護者が参加し、5つの質問が挙がりました。それらの質問は、その場で答えられるものに対しては代表や顧問から回答し、その場で回答できない質問は後日メールで返答をしました。当日参加されなかった方に対しては後日、説明会の資料と当日挙げた質問に対する回答を郵送しました。当日挙げた質問で即座に回答できなかったものは、質問が挙がって初めて気づくものでした。例えば、キャンプを行う施設の平均気温は何度か、などです。保護者の方々からの質問はキャンプをより安全に円滑に行うために大いに役立ちました。私たちキャンプ運営側にとっても保護者説明会は大切であると改めて感じました。

キャンプ5日前の8月7日に石田消防署のOBの方々に静岡県立大学までお越しいただき、安全講習会と救急講習会を受けました。大学生スタッフが参加しました。子どものキャンプ中の怪我や急な発病に備え、AEDの使用方法や止血方法、水の事故や火の事故への応急措置の方法などを教わりました。これは毎年行っているものですが、何度も練習することでより万が一の事態に対する行動を冷静にかつ迅速におこなえるようになるため、キャンプ前に欠かさず講習を受けるべきです。実際、キャンプ本番では熱中症とみられる症状を訴える子どもや、けがをして受診した子どもが現れました。それらの場合に冷静な判断と素早い行動ができたのは安全講習と救急講習のおかげだと考えています。

### 4. 今後の展望と改善点

今回、キャンプに参加した子供の比は、日本の子ども：外国にゆかりのある子ども＝約5:4と前回の参加者と比べリトルワールドキャンプが目標としている1:1に近づきました。これは、外国人学校へ積極的に広報活動をした点に加え、これまでの参加者の方やスタッフOB OGの口コミ、後援の方々の広報による結果と考えています。参加者の比が日本の子ども：外国にゆかりのある子ども＝1:1になることで我々が掲げるミッションが達成しやすくなるため、来年度以降も広報活動に力を入れていく方針です。

改善点としては、事前に行った安全講習会・救急講習会へのスタッフの参加率の低さです。まず、安全講習・救急講習は万が一の事態に備えスタッフはキャンプに参加する前に全員受講することが望ましいです。しかし、今回は欠席や途中退室が多くみられ、万が一に対し全員が万全の体制を取れていたとは言えません。危機管理と危険予測は子どもの安全にとって非常に重要であることを今一度スタッフ全員が意識し活動していきます。

参加した子ども全員が無事にキャンプを終え、笑顔で保護者の方々のもとへ帰れるようなキャンプを実現するため、新体制になるリトルワールドキャンプのスタッフ一同さらに強い覚悟で取り組んでいきます。

#### お問い合わせ・ご質問

静岡県立大学公認サークル リトルワールドキャンプ実行委員会

〒422-8526 静岡市駿河区谷田 52-1 静岡県立大学 リトルワールドキャンプ

E-mail: [little\\_world\\_camp@yahoo.co.jp](mailto:little_world_camp@yahoo.co.jp)

HP: <http://littleworldcamp.jimdo.com/>